

会議要旨録

会議名	令和5年度 第2回三郷市男女共同参画審議会
開催日時	令和6年2月20日（火）10時開会
開催場所	三郷市役所 本庁舎7階 農業委員会議室
出席者名	駒井委員、相澤委員、渋谷委員、石崎委員、閑田委員 (欠席：中川委員、加藤委員、太田委員、)
傍聴者	なし
事務局職員	若林人権・男女共同参画課長、豊田主幹
1 開会 (1) 委嘱書交付式 ・委嘱書の交付 2 議題 (1) 令和5年度男女共同参画推進事業報告（暫定値）について (2) その他 3 閉会	

発言者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
進行	<p>会議の成立について報告します。審議会は、委員の過半数の出席が要件となっております。本日は、委員5名出席ですので、会議の成立を報告させていただきます。</p> <p>議事に入ります。 議題（1）について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>※資料に基づいて説明</p>
進行	<p>質疑やご意見等伺いたいと思います。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>男女共同参画情報紙について、次回から発行がホームページ上でデータ掲載になるということでしたが、現在のように紙の情報紙が PDF で掲載されるイメージでしょうか。頻度や市民スタッフの人数なども変わらないのでしょうか。</p>
事務局	<p>デジタル化し、タイムリーな記事を掲載するため、頻度は現状より多く掲載する予定です。記事については、市民スタッフが企画編集する現在の形式ではなく、内容により市民のかたにご協力いただく形を考えています。形式については、現状の紙の情報紙を PDF 化したものより画面上で見やすいレイアウトを考えています。</p> <p>紙へ印刷した情報紙につきましては、三郷中央におどりプラザ内男女共同参画情報コーナーへ配架する予定です。</p>
委員	<p>デジタル媒体になった後で、紙でも発行するということでしょうか。それともQRコードを情報コーナーや図書館などに掲示するなど、お考えはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>紙で配架する場所は、三郷中央におどりプラザ内男女共同参画情報コーナーや週間の啓発の際にリーフレットと合わせて市民ギャラリーに配架する予定です。スマホなどからホームページへアクセスできるよう、QRコードなどを啓発事業の際に掲示する等、周知に関しましては工夫したいと思います。</p>
進行	<p>他に質問等ありますでしょうか。ないようでしたら委員の承認に移ります。</p> <p>議題（1）について、承認いただける方は挙手をお願いいたします。</p> <p>（全員挙手）</p>

事務局	<p>挙手の承認をいただきました。</p> <p>次に、議題（２）その他について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>始めに、前回の審議会でご質問いただきました男性職員の育児休業取得率に関して、他の自治体の状況をご報告いたします。続きまして、男女共同参画情報紙第50号の企画で実施しましたアンケート結果についてご説明いたします。</p> <p>※資料2に基づいて説明</p> <p>※資料3に基づいて説明</p>
進行	<p>事務局からの説明について、何かご質問やご意見等ありますでしょうか。</p>
委員	<p>情報紙に2009年に調査した結果が比較として載っていますが、このアンケートの対象者はどのような対象だったのでしょうか。</p>
事務局	<p>男女共同参画フェスタにご参加いただいたかたに協力していただきました。</p>
委員	<p>今回のアンケートの設問について、「男性は人前で泣くべきでない」という表現がありますが、どういう意味で設問したのでしょうか。</p>
事務局	<p>質問項目につきましては、内閣府が行いましたアンコンシャス・バイアスに関するアンケート調査に基づいています。</p>
委員	<p>この質問項目については、性別役割分担意識として、「男は泣くものじゃない」など、男らしさ女らしさのような規範をどれだけ内面化しているのかということを知りたいという質問なのではないでしょうか。</p> <p>「人前で泣く」という行為は、女性的とされてしまうような、逆に男であれば強くあるべき、など、そういうものがその人にどれくらい内面化しているのか、そういうことを聞きたい意図で内閣府も質問を設定したのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>今回の情報紙のアンケート結果で衝撃的だった数値が、図7の高校生の女性が「女性は結婚によって経済的に安定を得る方が良い」という質問への肯定的な回答の割合が高かったことにびっくりしました。この問いは、とてもいろいろなことを考えさせられる問いだと思います。一般的に我々世代は、女性にとって結婚は最大の就職だ、という感覚でいました。</p> <p>また、一人でいるよりも二人のほうがいろいろできる、という解釈ともとれると思いますし、言葉の意味合いについて、アンケートに答えるかたも、すごく迷ってしまったのではないかと思います。</p>

委員	<p>図7については、同じようなことを考えました。</p> <p>「女性は結婚によって経済的に安定を得る方がいい」というのは、何と比較するのか、女性は結婚によって経済的に安定を得なくてもいいということと比べたのか、しかし、一般的には安定した方がいいと思われま。一昔前であれば、これは仕事よりも結婚によって経済的に安定した方がいい、というような文脈に読まれたと思うのですが、時代が流れていますので、そうすると、この設問は、答えるかたみなさんが同じ意味でとらえていない可能性があるのではないかと思います。</p> <p>また、男性の方は、高校生のかたが低くなっていますが、男性としては、自分が女性へ経済的な安定を与えなければならないのか、と思うとすると当然低くなると思います。</p> <p>女性の方は、仕事をして安定を得る方がいいのかもしれないけれど、現実としては女性の方が平均賃金が低いとか地位が低いなどということが如実に表れていて、もし、それを知っているとすれば、これしか方法がないと思っている可能性がありますので、保険として安定を得る方がいいと考えている可能性があると思います。やや疑問を感じる質問項目でした。</p> <p>内閣府調査の質問対象はどのようなかたなのでしょう。</p>
事務局	<p>インターネット調査で年代に偏りなく実施していると思われま。</p>
委員	<p>年代層が同じパーセンテージであれば比較できると思いますが、片方がいろいろな年代で、片方が高校生の場合というのは、この差が地域差なのか、年代差なのかという比較が難しいと思います。内閣府の調査は、こういう対象のかたたちが答えていますというような説明があると、より親切な資料になるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>保育園の保護者のかたたちへのアンケートについて、何人のかたにアンケートを取って、回答率がどれくらいだったか、というようなことが書いてあると、もう少しこの数字がどういう意味をもっているかイメージしやすいと思いました。回答率はどれくらいだったのでしょうか。また、市内のすべての保育園へ実施したのでしょうか。</p>
事務局	<p>保育園については、地域が偏らないように、また、園側への負担等も考慮し、担当課と相談して5か所の保育園・保育所にご協力いただきました。</p> <p>アンケートは、父親・母親それぞれに答えていただきたいと思い、保護者1名につき1通を渡していただきました。アンケート用紙の数は、在籍児数かける2名分で算出して渡しています。ひとり親家庭もあるかと思ひますし、きょうだいで通っているご家庭もあると思ひますので、正確な対象者数は把握できかねました。配布数に対する回答数は把握していますので、後日、ご報告いたします。</p>

委員	<p>図4は、衝撃的な結果なのですが、男性は仕事をして家計を支えるべきだという設問に肯定的な回答について、この数字をどう解釈するかという点について、私見ではありますが、三郷市において、女性が仕事をして家計を支えられる仕事がどれだけあるのかということと密接なつながりがあり、そして保育園の保護者の男性は、実際に仕事をして家計を支えなければいけない世代なので、パートナーと話されて、男性が働いた場合、女性が働いた場合、収入はどちらが多くなるのかということを考えて、家族計画、将来設計を考えたとき、男性は仕事をして家計を支えるべき、自分がやらなくてはいけない、というような結果かもしれない、これは現実を反映している面が大きいのではないかと思います。</p> <p>特に高校生で男女の数値が逆転しているというのは、現実を知らない層なので、意識としてはこういう状況、保護者のかたは、できれば男性でも女性でもやる気のある方が、と思っていたとしても、現実はどうせざるを得ないということを反映している可能性が高いようにも見えます。</p>
事務局	<p>埼玉県は、妻側の非正規雇用の割合が大きい状況であり、当市でもそのような状況と思われます。</p>
委員	<p>そういう意味を含めて、これはいいアンケートだと思います。</p>
委員	<p>私の経験ですが、私がリタイアする頃、30歳前後の若手の職員がいて、共働きで子どもの面倒を誰がみるか、というときに、妻側の方が収入が高かった。この夫婦については、夫側が休みをとって子どもの世話をし、フレックスタイムを利用して、保育園の送り迎えをするという状況になったことがありました。男性が育児に参画するため、女性が社会で活躍するために何が大事かという、女性の給料を上げなければダメ、ということだと思います。妻側のお給料が上がれば、夫側が休みを取ることにつながる、という意味で、妻側の給料を上げることも有効だと思います。</p>
委員	<p>男性の育休取得率について、三郷市の男性職員の対象の人数ととったかたがだいたいどれくらいの取得期間だったのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>後ほど担当へ確認して回答させていただきます。</p>
委員	<p>三郷市役所の職員が育児休業を利用するようになったことは素晴らしいことだと思います。他の事業体のかたはどうなのでしょう。</p> <p>ジェンダー平等という一番進んでいるのはアイスランド。女性の首相へのインタビュー記事によると、アイスランドの男性の育児休業取得が多い理由について、育休は、女性が6か月、男性が6か月取るとプラス6か月取れるようになる、使わないと損だという思いが、制度利用に結びついてい</p>

	<p>る、というような内容でした。そういう施策をやってみてはどうでしょうか。簡単にはできないと思いますが、頑張って育児休業取得率を上げている企業、ジェンダー平等に取り組んでいる企業などを表彰する、市の広報で取り上げるなど、そういうインセンティブも考えてみてはどうでしょうか。</p>
委員	<p>PR になれば、そこで働きたいという優秀な人材が集まると思うので、いいインセンティブになるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>企業に関しては、埼玉県で「多様な働き方実践企業」として認定制度がありますので、制度の周知も併せて担当課と協力してまいります。</p>
進行	<p>他にご意見等ありますでしょうか。</p>
委員	<p>今回は、ひとつのことでも、いろいろな捉え方ができる、いろいろな観点から見てみると、一人で見た時と比べると全然意見が変わってくる自分に気が付きました。みなさんのいろいろな意見を聞くことができて、本当に勉強になりました。</p>
委員	<p>事業実績の暫定値について、説明を聞いて非常に進化していると思いました。中でも、サンゴクエストについて、リアリティがあるもので、ボードゲーム形式で実際に役割分担をして自分もやってみたい、職場でも実施してみたいと思いました。「ゲーム」とつくると、子どもたちも興味がわいてくるのではないかと思います。</p> <p>男性職員の育児休業取得率について、パーセンテージが高くなり、目標値も設定し直している、それに見合っただけで取得率が高くなっている、取得期間等の内容については、まだ改善点があるかもしれませんが、今日はいろいろと知ることができました。</p> <p>また、情報紙のカラフルの内容については、比較対象としては難しい点も出てくるかもしれませんが、2009 年との比較を見ると、ジェンダー意識が広がってきているのではないかと、まだ途上にあると思われそうですが、ジェンダー平等に向かってきているのではないかと、ということを感じ取ることができました。一方で、4 ページの世界との比較を見ると、これだけ取り残されているというような状況に非常に危機感を覚えました。ジェンダー・ギャップ指数が横ばいの状況のようですので、改善の一つとして職場でもそういうことを普及していかなければならないと感じました。</p>
進行	<p>いろいろなお意見ありがとうございました。 以上で審議を終了いたします。</p>